

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-162	高等学校	外国語科	コミュニケーション 英語 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
109文英堂	コ I 346	New Edition Grove English Communication I		

## 1 編修の趣旨及び留意点

学習指導要領に示されたコミュニケーション英語 I の目標「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」の達成を図った。中学校の学習と緊密に連絡し、身近な場面における言語活動を通してコミュニケーション活動を実践できるよう、基礎的な英語の修得を意識した。

外国語の目標である、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」を念頭に、国内外問わず広く関心を寄せられるような内容や活動を取り入れた。

## 2 編修の基本方針

教育基本法第2条に示された目標を達成するにあたり、以下の点を編修の基本方針とした。

- 男女共通に関係のある話題を選び、また学習者一般の生活環境に合うよう留意した。
- 題材の内容は、異文化、冒険、科学、芸術、環境問題、人権問題、物語など、広く各部門におよぶように留意し、広いものの見方・考え方の養成に努めた。
- 内容は、特定の宗教または世界観に偏らないように努め、時代の要請にこたえ、言語や文化に対する関心を高め、国際理解を深めるようにした。
- 明るいユーモアを含む教材を加えて、学習を楽しめるものにさせ、英語への関心を高めるようにした。
- 身につけた英語を実践に移すことを視野に、聞く、読む、話す、書く、の4つの領域の言語活動を有機的に関連づけて指導する場を設けた。
- 英語を通してのコミュニケーション能力を養成するために、随所にリスニングやスピーキングの機会を設けた。

### 3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
LESSON 1 <i>Omotenashi: The Spirit of Japan</i>	日本を訪れる外国人旅行者の声を通して自国の文化であるおもてなしについての理解を深め、他国とのつき合い方を考えるきっかけとした(第5号)。	8～12頁 16頁
LESSON 2 Why Is That So?	時計はなぜ右回りかなど、日常の疑問を読み、広い視野を持ち、真理を求める態度を養うきっかけとした(第1号)。	18～22頁 26頁
LESSON 3 <i>The Bento Goes International</i>	日本の弁当が海外で注目されている題材を読み、自国の文化を見直す機会を設けた(第5号)。	28～32頁 36頁
LESSON 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship	違う種の動物が友情をはぐくみ、お互いを思いやる様子を読み、生物や自然との共生について考えるよう促した(第4号)。	40～44頁 48頁
LESSON 5 <i>The Impossible Is Possible</i>	ノンフィクション作家の高野秀行さんが作家になるきっかけとなった冒険と、彼のメッセージを読み、生徒自身の可能性を広げるきっかけとした(第2号)。	50～56頁 60頁
LESSON 6 Eric Carle: How He Creates His Art	日本でも人気の絵本作家エリック・カールさんの創作の秘密をインタビュー形式で読み、日常の体験が創作につながっていることを知る(第2号)。	62～68頁 72頁
LESSON 7 <i>The Netherlands — Living with Water</i>	オランダの人々が環境と調和した生活を送っている話を読み、他国の文化を尊重する態度を養う(第1号)。	74～80頁 84頁
LESSON 8 Collective Intelligence	様々な動物の集合知の例を読み、人間も他の人と協力することが大切であることを知る(第3号)。	88～94頁 98頁
LESSON 9 10 Billion	私たち人間が他の生物や自然に対してどのような影響を与えているかを知り、いま自分たちに何ができるかを考えるきっかけとした(第4号)。	100～106頁 110頁
LESSON 10 One Child, One Teacher, One Book and One Pen	教育の大切さを訴えるパキスタンの少女マララ・ユスフザイさんのスピーチを読み、人権や教育の機会の大切さについて考えるよう促した(第3号)。	112～118頁 122頁

FOR READING	映画を原作とした話を読み, 1960年代	125～135頁
Hairspray	のアメリカが抱えていた人種問題を知る (第3号)。	

#### 4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 巻を通じて, 英語でコミュニケーションをとる際に役立つよう, 生徒にわかりやすい平易な英語を心がけた。
- 前見返しに教室内でよく使われる表現をまとめたほか, 各部のタイトルを英語にする (Master the Pattern, Put It All Together など), Master the Contents の指示文を英語にするなど, 英語での授業を念頭に様々な工夫を取り入れた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-162	高等学校	外国語科	コミュニケーション 英語 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
109文英堂	コ I 346	New Edition Grove English Communication I		

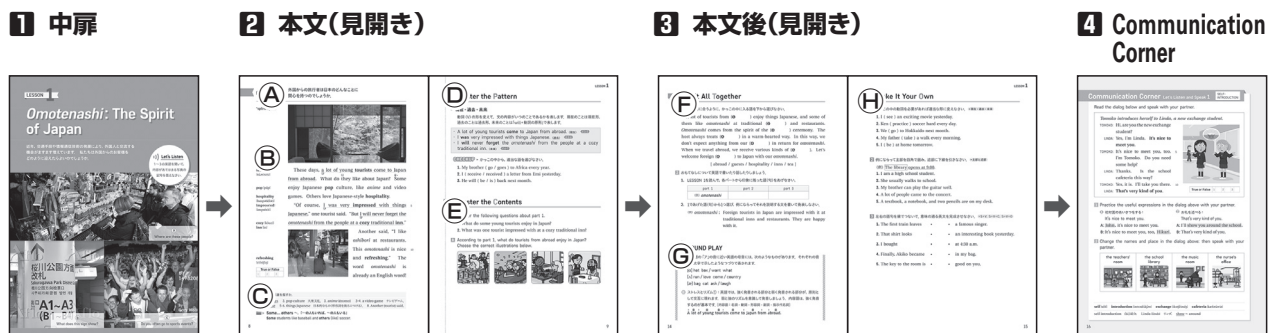
## 1 編修上特に意を用いた点や特色

「コミュニケーション英語」という科目名が示すように、コミュニケーションの一つの方法として英語を用いることを目標に以下の点に考慮し、本書の特色とした。

### 1 言語材料について

- 広くアメリカで用いられる表現、語法、綴りを中心とした。
- 題材の形式は、説明文、エッセー、インタビュー、物語形式などを採用した。
- 言語材料の使用にあたっては、指導要領に基づき、基本的な文構造・文法事項を用いた。
- 教材の配列にあたっては、段階的に1課のパート数と、1パートの語い数が増えるように全10課の正課を配したほか、特にリーディングをねらいとする教材を1つ置いた。

### 2 教科書の構成(LESSON 1～10)



<b>1 中扉</b>	本文に関連した3つの写真を配し、リスニング問題と英語の質問で本文への動機付けを行う。	
<b>2 本文</b>	<b>① 日本語の質問</b>	質問に対する答えを探しながら本文を読むことで、内容理解の手助けとした。
	<b>② 傍注</b>	新出語と発音を表記したほか、本文の内容理解を問うリスニング問題(True or False)を設けた。
	<b>③ 脚注1段目</b>	itやtheyなどが何を指すかを問う質問を置いた。
	<b>脚注2段目</b>	初出の固有名詞、意味のとりにくい表現、慣用表現などを置いた。慣用表現には生徒が意味を調べる際の助けになるよう、辞書で引く単語に下線を付した。
	<b>脚注3段目</b>	新出文法・慣用表現以外の重要な語法などを例文とともに掲載した。

	㉔ Master the Pattern	本文で扱う文構造・文法項目の簡潔な説明と確認問題を置いた。
	㉕ Master the Contents	本文の内容に関する英問英答の問題を2題と、イラストや表形式など出題形式を工夫した内容理解問題1問を用意し、本文の理解を測る場とした。
3 本文後	㉖ Put It All Together	課全体の内容をまとめた文を完成させる問題と本文の内容について書いたり話したりする問題を置いた。
	㉗ SOUND PLAY	綴りから発音を予測できるように、発音上のポイントをまとめた。
	㉘ Make It Your Own	本文で学習した文構造・文法項目の練習問題を項目ごとに用意した。
4 Communication Corner	聞く、読む、話す、書く、の4つの領域の言語活動の統合を図る場とした。奇数課では対話文を使って「聞く」「話す」を中心とした活動を、偶数課では新聞記事などを使って「読む」「書く」を中心とした活動を行う。	

## 2 対照表

### コミュニケーション英語 I の「内容」

(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
LESSON 1 <i>Omotenashi: The Spirit of Japan</i>	●おもてなしの由来と外国の例を紹介した文を読み、理解する(ア)(イ)。 ●自己紹介の場面で話し合ったり、意見を交換したりする(ウ)。	8～12頁 16頁	9
LESSON 2 <i>Why Is That So?</i>	●決まり事の原因を紹介した文を読み、要点をとらえる(ア)(イ)。 ●質問を聞いて、本文から答えを探して書く(エ)。	18～22頁 26頁	9
LESSON 3 <i>The Bento Goes International</i>	●日本の弁当がアメリカで評価されている理由を理解する(ア)(イ)。 ●昼食の場面で話し合ったり、意見を交換したりする(ウ)。	28～32頁 36頁	9
LESSON 4 <i>Owen and Mzee: An Amazing Friendship</i>	●カバとカメの間に生まれた奇跡的な友情の話を読み、要点をとらえる(ア)(イ)。 ●質問を聞いて、本文から答えを探して書く(エ)。	40～44頁 48頁	9
LESSON 5 <i>The Impossible Is Possible</i>	●ノンフィクション作家の高野秀行さんの冒険とメッセージを読み、理解する(ア)(イ)。 ●道案内の場面で話し合ったり、意見を交換したりする(ウ)。	50～56頁 60頁	9
LESSON 6 <i>Eric Carle: How He Creates His Art</i>	●絵本作家エリック・カールさんの作品や創作についてのインタビューを読み、理解する(ア)(イ)。 ●質問を聞いて、本文から答えを探して書く(エ)。	62～68頁 72頁	9
LESSON 7 <i>The Netherlands — Living with Water</i>	●オランダの人々が様々な工夫をして、環境と調和した生活を送っていることを理解する(ア)(イ)。 ●旅行先の場面で話し合ったり、意見を交換したりする(ウ)。	74～80頁 84頁	11

LESSON 8 Collective Intelligence	●動物の行動が様々な分野に応用されていることを理解する(ア)(イ)。 ●質問を聞いて、本文から答えを探して書く(エ)。	88～94頁 98頁	11
LESSON 9 10 Billion	●人口増加によってどのような影響が出るのかを理解する(ア)(イ)。 ●日本の人口減少問題について話し合う(ウ)。	100～106頁 110頁	11
LESSON 10 One Child, One Teacher, One Book and One Pen	●教育の機会を訴える文を読み、他国の事情を理解する(ア)(イ)。 ●マララさんのノーベル平和賞受賞演説を音読する。また、特に感銘を受けた箇所と理由を書く(イ)(エ)。	112～118頁 122～123頁	11
FOR READING Hairspray	●1960年代のアメリカが抱える問題や主人公の女の子の心情を読みとる(イ)。	125～135頁	6
計			104

(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
各課SOUND PLAY  LESSON 10 CC	ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。	14, 24, 34, 46, 58, 70, 82, 96, 108, 120頁 122～123頁	
句読法 Reading Skills 1, 2	イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。	37頁 38, 86頁	1 各1
LESSON 9, 10の本文とCC	ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。	100～106, 110, 112 ～118, 122～123頁	
計			3

## 「英語に関する各科目に共通する内容等」

1 言語活動を行うにあたって、[言語の使用場面の例]及び[言語の働きの例]を以下の箇所で取り上げた。

### 【言語の使用場面の例】

- a 特有の表現がよく使われる場面    b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面  
c 多様な手段を通じて情報などを得る場面

### 【言語の働きの例】

- a コミュニケーションを円滑にする    b 気持ちを伝える    c 情報を伝える    d 考えや意図を伝える    e 相手の行動を促す

図書の構成・内容	学習指導要領の内容		該当箇所
	言語の使用 場面	言語の働き	
HOW DO YOU SAY IT IN ENGLISH?	b (学校)	a (間をとる), b (感謝する), c (質問する), d (理由を述べる)(賛成・反対する), e (注意を引く)(依頼・提案する)	前見返し
LESSON 1 CC Let's Listen and Speak 1 (以下L&S)	b (学校)	a (初対面のあいさつをする), b (感謝する), c (自己紹介する), d (申し出る)	16頁
LESSON 2 CC Let's Read and Write 1 (以下R&W)	c (新聞)	c (報告する)(記事を作成する)	26頁
LESSON 3 CC L&S 2	b(買い物)	a (相づち), b (希望を述べる), c (例を示す)(説明する), d (希望を伝える), e (相手の意向をたずねる)	36頁

LESSON 4 Make It Your Own ③	a (日記)	c (描写する)	47頁
LESSON 4 CC R&W 2	c (インターネット)	c (報告する) (記事を作成する)	48頁
LESSON 5 CC L&S 3	b (道案内)	a (話しかける), b (お礼に対して返答する) (感謝する), c (説明する), d (場所をたずねる)	60頁
LESSON 6 本文	a (インタビュー)	c (描写する), e (質問する)	62～ 68頁
LESSON 6 CC R&W 3	c (紹介文)	c (説明する) (紹介文を作成する)	72頁
LESSON 7 PIAT ②	b (学校)	a (話題の発展) (相づち), c (説明する)	82頁
LESSON 7 CC L&S 4	a (旅行)	a (相づち), b (褒める), c (描写する), d (賛成する), e (助言する)	84頁
LESSON 8 PIAT ②	b (家庭)	a (話題の発展), c (説明する), d (情報を確認する)	96頁
LESSON 8 CC R&W 4	c (レポート)	c (説明する) (レポートを作成する)	98頁
LESSON 9 PIAT ②	b (学校)	a (話題の発展), b (同意する), c (説明する)	108頁
LESSON 9 CC L&S 5	a (討論) b (学校)	a (話題の発展), c (説明する), d (同意する) (ていねいに反論する) (主張する)	110頁
LESSON 10 本文	c (スピーチ)	a (話題の発展) (呼びかける), b (感謝する), c (描写する), d (主張する), e (依頼する)	112～ 118頁
LESSON 10 PIAT ②	b (家庭)	a (話題の発展), c (説明する), d (主張する)	120頁
LESSON 10 CC R&W 5	c (スピーチ)	a (話題の発展), b (感謝する), c (描写する) (感想を述べる), d (主張する), e (依頼する)	122～ 123頁

2 言語活動を行うに当たって、示された言語材料を以下の箇所に取り上げた。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所
巻を通じて418語の新語 (巻末WORD LIST A, B 参照)	<b>ア 語、連語及び慣用表現</b> (ア)語 a「コミュニケーション英語Ⅰ」にあつては、中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語	155～168頁
連語及び慣用表現を各課本文の脚注に示し、巻末のリストにまとめたうえで例文を付した。	(イ)連語及び慣用表現のうち、運用度の高いもの	150～151頁 152～154頁
LESSON 1 (S+V/S+V+C/S+V+O) LESSON 3 (S+V+O+O/S+V+O+C) LESSON 4 (S+V+O (=that節)) LESSON 7 (S+V+O+to不定詞/S+V+O+O (=that節)) LESSON 8 (S+V+O (=疑問詞節など)/S+V+O+C (=現在分詞/原形不定詞)) LESSON 10 (S+V+O+O (=疑問詞節など))	<b>イ 文構造のうち、運用度の高いもの</b>	13頁 31, 33頁 43頁 79, 81頁 89, 91, 93頁 117頁
LESSON 2, 5, 6, 7, 8	<b>ウ 文法事項</b> (ア)不定詞の用法	21, 53, 65, 77, 79, 93頁
LESSON 6	(イ)関係代名詞の用法	63, 69頁
LESSON 9	(ウ)関係副詞の用法	103頁
LESSON 1, 9	(エ)助動詞の用法	9, 105頁
LESSON 7, 8	(オ)代名詞のうち、itが名詞用法の句及び節を指すもの	77, 95頁
LESSON 1, 3, 4, 9	(カ)動詞の時制など	9, 29, 41, 45, 101頁
LESSON 9, 10	(キ)仮定法	107, 113頁
LESSON 10	(ク)分詞構文	115頁

3 2 に示す言語材料を用いるに当たっては、次の事項について以下の箇所配慮を加えた。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 標準的なアメリカ英語によっているが、LESSON 1, 3, 7で、言語が変化する例を掲載した。</li> <li>● 非英語圏の話者の英語を掲載し、できるだけ原文を尊重した。</li> </ul>	ア 現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。	8, 30, 74, 85頁 112～122頁
Make It Your Ownは文法の練習をする場だが、生徒が実際の生活の中で遭遇すると思われる場面での文法の使い方を示した。	イ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。	35, 47, 59, 97, 109, 121頁,
各パートの文法解説をするMaster the Patternにおいては文法的な用語をできるだけ用いず、簡潔な説明にとどめた。また、例文を挙げる際には、日常生活ですぐに使える覚えやすいものにした。	ウ コミュニケーションを行うために必要となる語句や文構造、文法事項などの取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるよう指導すること。	全般

4 生徒が英語に触れる機会を充実するために、以下の配慮を加えた。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語の授業に必要な表現を冒頭にまとめた。</li> <li>● 各部のタイトルMaster the Patternなどは、指示文を兼ねるよう工夫した。</li> <li>● 英語の授業を想定し、指示文の一部を英語にした。冒頭に主な指示文と訳をまとめ、生徒に負担がないようにした。</li> </ul>	4 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。	前見返し 全般 全般、5頁